

# 令和5年度 さいたま市立上木崎小学校 第2回学校運営協議会 議事録

日 時：令和5年11月 6日（月） 13時30分～15時20分

場 所：上木崎小学校 2階 大会議室

出席者：11名

欠席者： 3名

議事録：

（進行）教頭

## 1 校長あいさつ

- ・コロナで中止となった秋まつりやクリーン運動などが復活し、子どもたちにとっても、地域にとっても大変意義のあることであった。
- ・学校でもポストコロナ元年として様々な取組ができるようになった。しかし、従前のようにただ行事を戻すのではなく、学校教育や教育活動を見直して、試行錯誤しながら実施している。さらに、どのような子どもたちに育てたいかという目的を意識して、行っている。
- ・先日、今年度の学校評価を実施し、現在集計中である。今後の学校経営に生かしてまいりたい。
- ・学校評価の自由記述欄で「評価ができない」「評価が難しい」という意見があった。学校の様子が伝わっていなかったり、活動の意図がきちんと伝わっていなかったり、するものとするものとする。この点については学校から適切な情報発信をしてまいりたい。
- ・委員の皆様には、児童の健全な成長のために忌憚ない意見をいただきたい。

<学校運営協議会>

## 2 開会宣言（副会長）

## 3 情報提供（校長）

### （1） 学びのポイント「じ・し・ゃ・く」についての説明

関連参考資料 <https://miraiseedfansite.benesse.ne.jp/manabi-dx-story/saitamacity.html>

Benesse ホームページより

#### ・委員からの意見

㊦：新しい取組（ICTを活用した授業やじ・し・ゃ・くについて）の様子を例えば動画などで示していただきたい。そうすれば、学校評価で「評価できない」「評価が難しい」という回答も減るのではないか。

→この学校運営協議会や懇談会、学校ホームページなどを活用して、学校から情報発信することを積極的に検討する。

### （2） 校内教育支援センターの開設・運営についての説明

#### ・委員からの意見

㊦：よい取組だと思うが、人的支援が不足していることが理解できた。コミュニティースクールが始まり、地域と学校の連携が謳われているが、地域の施設として、どのように連携していたらよいか難しい。例えば、夏休みなどにお子さんに来てもらい、学習の支援をするなど、公民館としてできることを考えていきたい。

㊦：チャレンジスクールを活用し、子どもたちの学習支援をしていく。地域の中学校の学校運営



し、後押ししていく。

→自信をもった子どもは、他人にも優しくなれる。(=思いやり)

㊦担任が、事務室に「お使い」に出す機会を増やすことが子どもの心の成長を促す。

・「事務室からチョークもらってきて」→事務職員とのコミュニケーション→「もらってきてくれてありがとう」

㊦地域でも家庭でも、大人から積極的に声をかけることが大切。学校だけに任せるのではなく、地域や家庭が子どもとの意図的な関わりを意識してつくるのが、コミュニケーション力の向上につながり、相手を思いやる気持ちにつながる。

## **大人が子どもを見守り、先に手本を示せる地域を！**

### 5 情報交換

Q 上木崎小学校では、障害者支援に関する教育活動を行っているのか。

A 4年生の「総合的な学習」で白杖体験や、車いす体験などで、障害のある方やお年寄りの方の体験から福祉を学ぶ学習を行っている。障害のある方やお年寄りの方のサポートという体験は、今後の学習活動に導入することを検討したい。近隣に障害者交流センターがあるので、子どもの学びの場として活用することも考えたい。

### 6 閉会宣言（副会長）

### 7 事務連絡

○今年度の学校運営委員会準備委員会予定について

・今後の日程 第3回 令和6年 2月 5日（月）